

園芸大国とちぎスマートイノベーション研究会の概要

令和8（2026）年10月2日 栃木県農政部生産振興課

◎ 取組目的：園芸生産者が抱える課題やニーズを起点に、企業のスマート農業機器の開発・改良・実用化を促進する。

◎ 目指す姿：改良・実用化したスマート農業機器の普及拡大により、生産性の向上や省力化・低コスト化を実現する。

背景と課題

○スマート農業技術の導入が進んできたが、生産現場では機器のコストや本県の実産方式に適さない等の課題が生じている。

○企業の持つ開発・改良技術と園芸生産者の現場課題を解決するための声をマッチングし検討する機会が限られている。

⇒生産現場にはイノベーションの余地あり！

対象者と役割

○対象者

- ・スマート農業に取り組む又は関心のある園芸生産者
- ・県内生産者のニーズを踏まえたスマート農業機器の改良等に関心がある企業
- ・スマート農業を推進する団体、研究機関、行政等

○役割

【行政・研究機関】

- 支援
- ・実証等への助言
 - ・企業と産地のマッチング



【生産者】

- ・必要な性能の提案
- ・経営改善効果の評価

【企業】

- ・機器の実証・改良
- ・試作段階の機器の提供

主な取組内容

○新たにスマート農業機器の導入・拡大に取り組む企業と意欲ある園芸生産者が集う研究会を設立し、2つのプロジェクトにより取組を進めていく。

【1】収量・品質向上！生産性向上プロジェクト

⇒収量・品質向上、作業効率向上、データを活用した技術の見える化
例）環境制御（測定）機器、自動かん水装置 など



【2】経営改善！省力化・低コスト化推進プロジェクト

⇒自動化による労働時間削減、作業負担軽減、燃料費・資材費等の削減
例）施設の自動管理機器、ロボット薬剤散布機 など



- 各プロジェクトにおいて企業や園芸生産者の取組ごとにグループ化
- 研究会では各プロジェクトに関するセミナーや現地検討会を開催（参加する企業や園芸生産者は随時募集）

【取組の流れ（イメージ）】

- ①生産者・企業による提案 → ②企業と産地のマッチング → ③産地で実証 → ④生産者の評価・提案 → ⑤企業による機器の改良 → ⑥取組状況の共有

※生産現場の実情に応じて、①～⑥を繰り返しながら取組を進める

目指す姿

○企業と園芸生産者が集い、本県に適したスマート農業技術の開発・改良・実用化を進め、園芸生産のイノベーションを目指す。

⇒スマート農業により更なる生産性の向上や省力化・低コスト化を実現

